



Accuracy of oncologist assessments of psychiatric problems in cancer inpatients

著者名	安来 大輔
発行年	2017-10-20
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032183

主論文の要約

Accuracy of oncologist assessments of psychiatric problems in cancer inpatients. (担癌入院患者の精神医学的問題に対する腫瘍医の評価の正確性)

東京女子医科大学精神医学教室
(指導：西村勝治教授) ㊞
安来 大輔

Palliative & Supportive Care.2017 May 3;pp1-9 [Epub ahead of print]

に掲載 (平成 29 年 5 月 3 日発行)

【目 的】

本研究の主目的は、非精神科医による担癌入院患者の精神医学的問題への評価がどの程度正確になされているか、を明らかにすることである。

【対象および方法】

東京都立多摩総合医療センターで 2011 年 1 月から 2012 年 12 月にかけて、コンサルテーション-リエゾン (C-L) チームに紹介された担癌入院患者 240 名について後方視的カルテ調査を行った。腫瘍医 (非精神科医) による依頼前評価をその質的内容によってカテゴリーに分け、C-L 精神科医が下した最終診断との一致率をカテゴリー別に算出した。

【結 果】

依頼元である腫瘍医と C-L 精神科医の評価の一致率は、評価カテゴリーにより異なるものであった。"delirious", "depressive", "dyssomnia", "anxious", "demented", "psychotic", "other" の 7 カテゴリーにおける評価一致率はそれぞれ 0.87, 0.43, 0.51, 0.50, 0.27, 0.55, 0.57 であった。全カテゴリーでの平均一致率は 0.65 であった。7 カテゴリーの間で有意に一致率は異なっていた ($\chi^2=42.454$, p 値 <0.001 , $df=6$)。比率に対する平均分析によって、全カテゴリーでの平均一致率と比べて "delirious" カテゴリーは有意に一致率が高く、

“depressive”カテゴリーの一致率は有意に低かった。“demented”カテゴリーの一致率は下限棄却限界値に近接していたもののわずかに有意でなかった。“depressive”と評価されて紹介された患者 40 人のうち、半数はせん妄、四分の一は持続性意識障害と精神科医に診断されていた。また、“demented”として紹介された患者 11 人中 7 人は精神科医にせん妄と診断されていた。

【考 察】

腫瘍医による精神医学的問題への評価の正確性は、腫瘍医が想定した精神状態の種類により異なる。腫瘍医が抑うつ的と評価した場合、その評価はあまり正確ではなく、せん妄患者が誤認されている可能性がある。これは低活動型せん妄と抑うつ状態の症候学的類似性、軽微な意識障害の評価が難しいためだと考えられる。また、腫瘍医が認知症を推定した場合もせん妄が誤認されている場合が多いかもしれない。一般に横断面のみでは認知症とせん妄の症候学的鑑別は困難である。逆に腫瘍医がせん妄を疑った際は多くの場合その評価は正しい。これはせん妄が過活動型の場合ではその症状特徴から容易に発見され C-L へ紹介されやすいためと推定される。

【結 論】

腫瘍医は、患者が抑うつ状態または認知症状態であると疑った場合、せん妄の見落としに注意すべきである。低活動型せん妄の発見、または認知症とせん妄との鑑別のために、注意深い経時的なチャートレビューにより時間変動性や発症形式を見落とさないこと、注意障害テストを実施することを推奨する。